

令和 元年 6 月 16 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04671

研究課題名(和文)国語科教員に必要な「古典力」育成のための教育開発研究

研究課題名(英文) Education program to foster the development of "Teaching faculty of additional language and culture matters" needed to teacher of Japanese

研究代表者

三宅 晶子 (MIYAKE, Akiko)

横浜国立大学・教育学部・教授

研究者番号：20181993

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)： 教員志望の大学生が、それまでに受けた古典の授業と、それについて持っている印象について、10年間継続している実態調査を行い、その分析結果を公表した。

大学教員・学生・現職教員による研究会「古典教育デザイン研究会」を主宰し、年に二回大会を開催。積極的に古典を学び、教えたいという意欲を与えるカリキュラムと教育法について、検討した。それらの成果に基づき、『もう一度読みたい古典文学』というテキストを作成中である。複数のハイビジョンカメラ撮影による能の舞台映像を、同一画面上に複合し、詞章を付したDVDを作成、魅力的な能の紹介教材開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

青少年層を中心に、古典嫌い、古典に興味が無い人が激増している昨今、魅力的な古典の授業をできる教師の育成は非常に重要な課題である。計画的教員養成系学部所属する研究代表者が、学部生・教育学研究科院生・教員として活躍している卒業修了生たちと共同して、古典教育デザイン研究を行ってきた。年二回の大会と会誌『古典教育デザイン』の刊行はその成果であり、現代の教育現場にたいして、重要で有効、かつ魅力的な古典教育への提言を行っていることに、大きな意義がある。

また研究代表者の専門である能楽研究での経験を活用した三面マルチ画像による能・狂言の動画作成は、今後の古典芸能関連教材のあり方への、重要な提案である。

研究成果の概要(英文)： We surveyed the students who will be teacher about their Japanese classical literature.

I presided over "the Society of Classical education design". That is Professor Student and Teachers held a study group. And we thought a better approach actively learning the classic. Now we have created, "Mouitido yomitai K0tenbungaku". The text that you want to use in college.

研究分野：社会科学

キーワード：古典教育 古文 漢文 伝統的言語文化 能 小学校国語 中学校国語 高等学校国語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

平成23年度から小学校において教科書が一新され、伝統的な言語文化の事項の教育が開始された。それに先だって、現場教員や教員志望の学生たちのために着手したのが23年度までの三年間で行った「小学校教員に必要な「古典力」育成のための教育プログラム開発」(基盤研究(C))であった。小学校現場では教師が何をどう教えたらよいか戸惑い、古典に関しての素養が無いのに本当に子供達に教育できるのか、して良いのかという不安の声が寄せられていた。それは実は今もあまり変わらない。平成24年度～26年度の三年間では「中等国語科教員に必要な「古典力」育成のための教育プログラム」の研究を行ったが、その目的は、古典嫌いは現場の教師にこそ根強いものであり、それを解決しないと小学校から古典教育を始めても効果が無いどころか逆効果の危険性もあること、古典嫌いな教師を作らないためには中学・高校でどんな古典教育を受けたか、どんな教師に出会ったかということが影響していることが明らかになり、結局堂々巡りしているのだが、やはり中等教育こそが重要と考えたからであった。

六年間の取り組みの中で明らかになったことの一つに、小・中・高の教員が、情報交換したり連携することがほとんどなく、個別に教育が行われている点がある。たとえば『竹取物語』『枕草子』『百人一首』など、小学校・中学校・高等学校の各段階で繰り返し教科書に採用されており、それぞれ生徒の発達段階に応じた教育を施し、繰り返しの学習によって得られる教育効果を重んじての採用であると考えられるが、現場においては、できる限り教材の重複を避け、繰り返しの学習にならないようにカリキュラムを組む傾向が強い。そのあたりの食い違いを明らかにし、繰り返しの学習による効果について考え、提案する必要性があると考えた。

### 2. 研究の目的

平成21～23年度・24～26年度の、科学研究費基盤研究(C)で行った「小学校教員に必要な「古典力」育成」・「中等国語科教員に必要な「古典力」育成」二つの教育プログラム開発を連続させて体系化し、継承発展させることを目的とする。

研究代表者の所属する計画的教員養成大学の使命を鑑み、かつその環境を活用して、教員志望の学生、あるいは現職教員にとって、成長期にある子供達に日本の伝統的言語文化の事項を教育するためにはどんな「古典力」が必要かを明らかにし、現代・近未来に必要な古典教育法を開発する。

一連の研究における集大成を目指す今回は、古典教育においてこれまで軽視されがちであった小・中・高校間での教育プログラムの体系化に重きを置いて、取り組む。

### 3. 研究の方法

#### 4つの観点からのアプローチ

- (1) 国語教科書・指導書、関連視聴覚教材、教材研究のための古文・漢文関連図書の体系的収集と公開をして、学生・卒業生その他必要に応じて資料調査が手軽に出来る環境を整備する。
- (2) 「古典力」調査アンケートの実施  
これまで七年間継続的に行ってきた実績を活用し、アンケートの方法、質問の内容などの適不適を検討の上、一部改良する。  
平成28～30年度の教育学部学校教育課程在籍の一年生を対象に、アンケートを実施する。  
ゼミ生を指導して、アンケート結果をデータ入力し、それを集計・分析しその結果を『横浜国大国語教育研究』に掲載する。  
年度別の違いに注目して、移り変わりを捉えることと、共通して変化しない要素が何かを明らかにする。
- (3) 今必要な学部・大学院の教育内容と授業方法に関して、研究代表者自身も様々なアプローチを試みると同時に、指導学生や現場の先生達との共同作業や、情報交換によって、実現可能な提案を行っていく。

古典教育デザイン研究会を主宰し、年二回の大会と、年会誌発行、図書館のリポジトリでの公開を行う。

大学生・社会人向けに、『もう一度読みたい古典文学』（勉誠出版刊予定）を執筆編集する。

- (4) 横浜能楽堂の協力を得て、能舞台の正面・脇正面からのハイビジョンカメラ撮影による能・狂言の映像を、編集処理して、マルチ画面のDVDを作成する。それを利用しての紙面構成による能のテキスト作りの準備を行う。

#### 4. 研究成果

- (1) 平成27～30年度に刊行された小・中学校国語教科書、高等学校国語総合・古典A・古典Bのすべての教科書を収集した。指導書についても、小中学校国語教科書分は収集した。高等学校のものは、数も多く高価なため、断念した。現行古典関連の教科書は体系的に収集でき、学生・卒業生、その他必要に応じて資料調査が手軽に出来る環境が整った。
- (2) 「古典力」調査アンケートの実施・集計・分析・考察に関しては、平成27～30年度学校教育課程一年生全員（毎年約230名）分を実施、分析・考察は26～29年度分が終了した。
- (3) 古典教育デザインの提案・指導に関しては、主宰する古典教育デザイン研究会の活動を軌道に乗せられたこと、会誌『古典教育デザイン』を3号まで刊行（現在4号を編集中）、横浜国立大学図書館のリポジトリ登録をして、公開できたことは大きな成果であった。申請者を始め、大学院生や現任教員となっている修了生などが参加し、研究発表や論文執筆の指導を行い、会誌に掲載した。申請者本人は、2017年8月31日E A J S（ヨーロッパ日本研究協会、リスボン大会）において、また2017年11月4日全国大学国語教育学会第133回福山大会において研究発表を行った。
- (4) 能・狂言のハイビジョンカメラによるマルチ画像作成は、能七曲狂言二曲が完成した。今後の課題として、さらに画面構成の工夫を続け、正面・脇正面・演者のアップという画像の組み合わせと大きさ、どこに置くかということの工夫をして、よりよいスタイルを確立する必要がある。それが完成した暁には、重要場面の静止画像を使用した、紙媒体によるテキスト作成に踏み切りたい。

#### 5. 主な発表論文等

##### 〔雑誌論文〕(計6件)

- 三宅晶子、ワキが似合う西行、中世文学、査読無（招待論文）64号、2019、12-22  
三宅晶子、「三五夜中新月色 二千里外故人心」をめぐる 白楽天と紫式部と世阿弥と禅竹、横浜国大國語研究、査読無、37号、2019、1-16  
三宅晶子、初めての古典文学、古典教育デザイン、査読無、4号、2019、入稿済  
三宅晶子、繋がる今と昔 昔話「こぶとりじいさん」と『宇治拾遺物語』「鬼に瘤とらるること」、古典教育デザイン、査読無、3号、2017、68-79  
三宅晶子、研究十二月往来（352）力動風再考、鏗仙、査読無、670号、2017、4-5  
三宅晶子、禅竹のもたらした能の革新性、能と狂言、査読有、14号、2016、104-120

##### 〔学会発表〕(計7件)

- 三宅晶子、シンポジウム「なぜ西行なのか」/「能 ワキが似合う西行」、中世文学学会、2018  
三宅晶子、「三五夜中新月色 二千里外故人心」をめぐる 白楽天と紫式部と世阿弥、横浜国立大学国語・日本語教育学会、2018  
三宅晶子、古典芸能と古典教育、同志社大学大学院文学研究科国文学研究学会、2018、  
三宅晶子、暗記する『百人一首』から感じる歌へ 教員養成の立場から見た今必要な「教師力」、全国大学国語教育学会、2017  
アイケ グロスマン、竹本幹夫、三宅晶子、能と社会、E A J S 2 0 1 7（リスボン大学）2017  
三宅晶子、古典教育の現状 中学国語教科書、古典教育デザイン研究会春季大会、2017  
三宅晶子、『百人一首』の授業、古典教育デザイン研究会夏季大会、2017

##### 〔図書〕(計3件)

- 三宅晶子、歌舞能の系譜 世阿弥から禅竹へ、ペリかん社、2019、338  
大石学、出口俊定、山口宏樹、徳久剛史、長谷部勇一、岸学、細淵富夫、三宅晶子、竹内裕一、教育の国際化と学際化に向けて 広域科学としての教科教育、東京学芸大学出版会、2018、136  
三宅晶子、対訳で楽しむ 鶺鴒、檜書店、2016、28

##### 〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 古典教育デザイン研究会 kotened.webcrow.jp

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。